

富津市献血推進協議会会議録

1	会議の名称	令和7年度富津市献血推進協議会
2	開催日時	令和7年8月19日（火） 午後2時00分～2時45分
3	開催場所	富津市役所 5階 504会議室
4	審議等事項	1 議題 （1）令和6年度富津市献血推進協議会 事業実績報告について （2）令和7年度富津市献血推進協議会 事業実施計画（案）について （3）その他 2 千葉県献血状況について
5	出席者名	献血推進協議会委員（10名） 高橋恭市（富津市長）、峯島喜明（君津健康福祉センター）、阿部春汰（日本製鉄株式会社技術開発本部）、内田一（黒田精工株式会社）、安田俊司（ハヤシレピック株式会社）、溝口智（富津ライオンズクラブ）、大野泰代（富津市赤十字奉仕団・富津市連合女性会）、高橋廣（富津地区区長会）、小野田隆博（富津市健康福祉部長）、庄司健一（富津市消防長） 千葉県赤十字血液センター（1名） 土屋啓之（事業課長） 事務局（3名） 成田政勝（健康づくり課長）、桑田正和（健康づくり課長補佐）、小柴琉瑛（主事）
6	公開又は非公開の別	☒ 公 開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	0人（定員3人）
9	所管課	健康福祉部健康づくり課 電話 0439-80-1268
10	会議録（発言の内容）	別紙のとおり

令和7年度富津市献血推進協議会 会議録

発言者	発言内容
(進行) 成田課長	私は、本日の会議の進行を務めさせていただきます、健康づくり課長の成田と申します。よろしくお願いいたします。 会議を始める前に、配布資料の確認をお願いいたします。 本日お配りした、会議次第が1枚、座席表が1枚、富津市献血推進協議会設置要綱が1枚、事前に郵送で配布させていただきました、「令和7年度富津市献血推進協議会会議資料」ホチキス止めの資料が1部、千葉県赤十字血液センター様からの資料として、「千葉県の供給・献血状況」が1枚、「献血について」ホチキス止めの資料が1部、「ラブラットアプリ移行のご案内」が1枚でございます。 資料が不足している方がいらっしゃいましたら、お手数ですが挙手をお願いいたします。 それでは、定刻となりましたので、ただいまから令和7年度富津市献血推進協議会を開会いたします。 本日の会議は15名の委員のうち、出席者10名で過半数に達しておりますので、「富津市献血推進協議会設置要綱」第6条第2項により会議は成立しております。 この会議は、富津市情報公開条例第23条の規定により、会議の公開と、会議録を作成し閲覧に供さなければならないこととなっておりますので、傍聴人の受け入れと会議録の公表について、ご理解の程お願いいたします。なお、本日の傍聴人はおりません。 また、会議録作成のため、会議の内容を録音させていただきますのでご了承くださいますようお願いいたします。 それでは、次第の2「委員及び事務局職員紹介」でございます。 本日は、令和7年度となり、委員及び事務局職員の交代もございましたので、改めて委員の皆様及び職員のご紹介をさせていただきます。 令和7年度富津市献血推進協議会会議資料1ページの令和7年度富津市献血推進協議会委員名簿をご覧くださいと存じます。 交代のございました委員につきましては、委嘱状を机上配布により交付させていただきます。 それでは、委員の皆様を委員名簿の順に、ご紹介させていただきます。 (名簿順に紹介) 続きまして、本日、千葉県赤十字血液センター千葉港事業所事業課長土屋啓之様にご出席いただいております。 後ほど、千葉県の献血状況についてご説明をいただきます。 続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

	(事務局の紹介) それでは、次第の３「会長あいさつ」でございます。 本協議会の会長であります、高橋市長からご挨拶申し上げます。 高橋会長 改めまして皆様こんにちは。 本日は、大変お忙しい中、令和７年度富津市献血推進協議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。 さて既に、皆様には持つまでもなく、医療技術の発達や医学の発展の中で、いまだ治療等に必要な血液というのは、献血に頼っているというのが実情でございます。 しかしながら、少子高齢化により、献血可能な人口は減少をしているというような厳しい状況がございます。 このような状況の中で、健康な方が善意により無償で血液を提供してくださり、誰もが安心して輸血を受けることができるよう、献血の必要性、その思想の普及をしていくということが大変重要だと考えております。 令和６年度は、県の献血目標を大幅に達成することができました。 令和７年度も引き続き目標を達成できるよう、啓発活動に努めてまいりたいと考えております。引き続きのご協力のほどよろしくお願い申し上げます。 本日は、令和６年度の事業実績報告と、令和７年度の事業実施計画(案)を議題とさせていただきます。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。 成田課長 ありがとうございました。 これから、議題に入らせていただきます。 議事進行につきましては、協議会設置要綱第６条第１項の規定により、会長である市長が会議の議長となることとなっておりますので、会長よりお願いいたします。 高橋議長 それでは、議長を務めさせていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。 ここで、会議録署名委員を指名させていただきます。今回は、大野委員、高橋委員をお願いいたします。 それでは、次第の４、議題の（１）「令和６年度富津市献血推進協議会事業実績報告について」事務局の説明を求めます。 桑田課長補佐 それでは、「令和６年度富津市献血推進協議会事業実績報告について」説明させていただきます。 資料により説明 (説明要旨) 令和６年度富津市献血推進協議会事業実績報告 200ml 献血 12名
--	---

高橋議長	県目標の 85.7%、市目標 85.7%の達成 400ml 献血 1,026 名 県目標の 221.6%、市目標の 107.1%の達成 合計 1,038 名 県目標の 217.6%、市目標の 106.8%の達成 26 会場で実施 受付 1,164 名、不採血 126 名 以上で「令和 6 年度富津市献血推進協議会事業実績報告」についての説明を終わります。 よろしく、ご承認の程、お願い申し上げます。 事務局の説明は終了しました。 ただ今の説明に関して、ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。 それでは、特にないようですので、「令和 6 年度富津市献血推進協議会事業実績報告」につきまして、承認ということでよろしいでしょうか。 「異議なし」の声あり
高橋議長	ありがとうございます。 それでは、異議がないとのことですので、承認いたします。 続きまして、議題の（２）「令和 7 年度富津市献血推進協議会事業実施計画（案）」について事務局の説明を求めます。
桑田課長補佐	それでは、「令和 7 年度富津市献血推進協議会事業実施計画（案）」について、説明させていただきます。 資料により説明 （説明要旨） 令和 7 年度富津市献血推進協議会事業実施計画（案） 市独自の目標 200ml 献血 14 名、400ml 献血 990 名 合計 1,004 名 千葉県が定めている富津市の目標 200ml 献血 14 名、400ml 献血 465 名 合計 479 名 富津市独自の献血目標につきましては、過去 3 年間（令和 4 ～ 6 年度）の目標と実績に基づいて算出しました。 具体的には、各年度の実績達成数（1,001 人、972 人、1,038 人）の平均である 1,004 人を合計目標に設定しました。また、200ml 目標は

	千葉県と同様の 14 人。400ml 目標は合計目標から 200ml 目標を引いた 990 人を設定しております。 この中に記載はございませんが、新たな会場など、千葉県赤十字血液センター様と協力し、検討していきたいと考えております。 以上で「令和 7 年度富津市献血推進協議会事業実施計画（案）」についての説明を終わります。 よろしく、ご承認の程、お願い申し上げます。
高橋議長	事務局の説明は終了しました。 ただ今の説明に関して、ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。 それでは、特にないようですので、「令和 7 年度富津市献血推進協議会事業実施計画（案）」について」承認ということでよろしいでしょうか。
	「異議なし」の声あり
高橋議長	ありがとうございます。 異議がないとのことですので、承認いたします。 続きまして、議題の（３）「その他」として、委員の皆様から何か、ご意見などありますか。 それではないようですので、以上で本日の議題は全て終了いたしました。議長の職を解かせていただきます。 ご協力ありがとうございました。
成田課長	ありがとうございます。 続きまして、次第の 5「千葉県の献血状況について」になります。 千葉県の献血状況につきまして、千葉県赤十字血液センター千葉港事業所事業課長の土屋様から、ご説明いただきます。
土屋事業課長	先日富津市役所さんの方で献血実施させていただきました。多くの方にご参加いただきました。議題の方にもありましたが、県の目標に比べて実績がかなり高くなっております。県の目標は、昼間の献血可能人口を按分して目標を設定していますが、それ以上の方にご参加いただいているということで、大変助かっております。 まず、献血についてですが、受付から検査、採血終わるまで 40 分近くという時間をいただかなければいけません。勤務時間内に従業員から出していただくというご理解がいただけないと献血者は集まらないということで、大変助かっております。 どうしても 40 分かかってしまいますが、針を刺す時間は 10 分から 15 分程度だと思っていただきたいと思います。これはあくまでも全血献血の献血になりますので、献血ルームで行っている成分献血だと針を刺す時間が 30 分から 40 分程度はかかるということでご承知おきください

い。

次に、いただいた血液がどういった方に使われているのかというと、悪性新生物、がんの患者さんが一番多くなっております。一般的に輸血ってどんなときに使われると思いますかという質問をすると、怪我や手術という回答がありますが、実はそういったところで使われる血液の割合はかなり低く、2.6%しかありません。内科的治療で使われているものが多く占めているので、毎日繰り返し血液が必要になっています。

輸血を受ける方々の年齢は、50 歳以上の方が 87%以上を占めています。市長さんのご挨拶の中で少子高齢化というお話もありましたが、高齢者が増えており、血液を使用する年齢層が多いということは今後も血液の使用量が伸びていってしまう。

こういったことが血液事業の問題となっており、逆にそれを支える若い方が減っています。若い方の献血率が下がっているというのも、皆さんにご理解いただきたいと思います。

昨年度、千葉県全体ではどのくらいの人数が献血にご協力いただいたのかというと、266,000 人を超える方にご協力いただきました。その中で 400ml の献血をお願いできた方が約 160,000 人近く、200ml の献血は 6,000 人弱。成分献血は 73,000 人の方にご協力いただいております。

昨年度の実績も 200ml 献血の割合はかなり低いのですが、何故少ないのかというと、医療機関から血液の注文があまり入らないからです。1 回に輸血で使う量が 200mL だけで済む。こういったことがほぼありません。1 人の患者さんに多くの方の血液が入ってしまうと副作用が増えてしまうということに繋がりますので、なるべく少ない人数の血液で輸血を済ませたいと考えております。

そのため、200ml と 400ml しかないとなると 400ml の方が多く必要とされます。266,000 人を超える方に献血していただきまして、その中で 27,000 人を超える方が献血をお願いできなかったということで、富津市さんの方でも 1 割近くの方をお願いできなかったという統計が出ております。

できない方々の理由と致しまして、約半分が血液の濃さです。血液の濃さ薄さ、簡単に言うと血液が基準満たさない。こういった形をお願いできない方がいらっしゃいます。

あとは血圧が高すぎても低すぎてもお願いができません。

また、輸血される患者さんにとってよろしくない薬があるため、薬についても伺って、お願いができなくなる場合がございます。例えば A という薬があります。血圧を下げるために飲む A ですが、狭心症のために使用している方もおり、両方とも効果があります。血圧を下げるために飲んでいる場合はできますが、狭心症の方は現疾患のためできないということになります。

この薬では大丈夫、この薬では駄目ということではなく、あくまでもどういった目的で、どういった治療に使われているのか。そうして、薬の方でできるか否かというのも変わってしまうため、一概にこの薬

は大丈夫ですかと聞かれてしまうと、お答えはなかなか難しいということをご理解ください。

千葉県全体としての献血の状況です。千葉県の人口が約 6,300,000 人だと言われております。その中で献血にお願いできる年齢ですが、16 歳から 69 歳の約 4,200,000 人ぐらいだということです。

その中で昨年度 238,000 人を超える方にご協力いただいたのですが、やはり割合としては少ないです。また、これは延べ人数ですので、実人数に直すと約 122,000 人しかいらっしゃいません。ですので、献血をお願いできる方をもっと増やしていかなければならないのです。

あとは、1 年に 1 回お願いできている方が、年 2 回もしくは 3 回とご協力いただけるようになると、血液の確保が大変楽になっていくと考えております。

そして、千葉県内でいただいた血液と病院で使った血液の割合についてです。病院へお届けした場合は 200ml が 1 単位、400ml が 2 単位という単位にて表しております。そうしますと昨年度は千葉県内 200ml400ml 合計で 164,000 人を超える方にご参加いただき、単位数と致しましては、323,000 単位を超える血液をいただきました。病院にお届けした数ですが、200ml400ml 合計で 172,000 人以上、340,000 単位を超えております。差し引きいたしますと、16,479 単位足りていないというような形になってしまいます。

千葉県外の献血でいただいた血液で、千葉県内の医療機関にお届けする血液は賄えていないというような結果になっております。人数を 1 日あたりに直すと、200ml の献血は若干多めですが、400ml の献血は 24 名足りていないという形になっております。

足りなかった分は、他県(東京、神奈川、埼玉ほか)から応援をいただき、千葉県の病院にお届けしているという形になっております。

千葉県の目標は合計で 229,702 人としました。それに対して実績は 238,000 人を超えております。率にすると約 103%。目標より多くの方のご協力をいただいておりますが、それでも医療機関への届けは若干足りていないということをご理解ください。

1 日にバス 1 台稼働し、何人ぐらいにご協力をいただきたいのかというと、

200ml が 2 人、400ml が 50 人。バス 1 台に対してこれだけご参加をいただかないと今年度も病院への供給が滞ってしまう形になっております。

大きな会場であれば人数の見込みはありますが、この時間内でないとか協力をいただけない、というような企業さんでは、例えば、午前中の 1 時間 2 時間に 10 人 15 人のお願いをし、お昼休みしかできないという企業さんに向かって 10 人 15 人。それから、夕方のみお願いできる企業さんへ行って 10 人 15 人。バス 1 台でどう頑張っても 1 日に 30 人から 40 人しかお願いできないような稼働もあります。

たくさんお願いをできる会場、ギリギリのところで行っている会場。バランスを取りながら、千葉県内の献血をご協力いただいているような状況でございます。

	いただいた血液は実際どのくらい持つのかというと、赤血球は採血後 28 日、約 4 週間。成分献血でいただく血小板は、7 月末から少し有効期限が伸び、以前は 4 日間でしたが、現在は 6 日間になっております。 ただし、検査にかかる時間が増えてしまっており、実際に血液センターから病院お届けして、使っていただける時間というのは変わっておりません。毎日必要な数をいただかないと、足りていかないというような形になっております。 また、今献血をお願いすると多くの方に献血カードという磁気カードを発行しております。こちらが来年の 1 月以降発行がなくなり、全てアプリでの対応という形になります。 アプリ、献血カード、当日お手元になくても献血を受け入れることはできます。ただ、問診の事前回答やご予約などができますので、アプリをご利用いただけますと、大変助かります。アプリの登録等わからなければ、献血会場にてお手伝いの方もしておりますので、ぜひ職員にお声掛け下さい。 若年層の献血が減っているため、平成 5 年度と令和 5 年度を比べると割合が 3 分の 1 ぐらいまで減ってしまっています。以前は千葉県内の高等学校にお願いできていましたが、今、高等学校での献血はあまり行っていません。そうすると、入口(16 歳)での献血がなかなかありません。大学や、会社に入られて企業さんにバスでお邪魔させてもらい、そこで初めて献血を行うという形になるのですが、やはり高等学校献血がなくなったというのが、千葉県で若年層が減った一番の原因と考えています。ですが、授業の合間に献血バスでお邪魔してお願いするのはやはり難しいです。 ただ、授業の一環として、献血セミナーという血液の必要性をお知らせする取り組みを行っておりますので、もし機会があれば、高校生だけに限らず、小学生や中学生向けでもお話いただければ、私どもの方はお邪魔させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。 以上で千葉県の献血状況についてのご説明を終了いたします。ありがとうございました。
成田課長	土屋様、ありがとうございました。 委員の皆様、何かご質問がございましたらお願いいたします。
小野田副会長	輸血を受けた年代別の 50 歳以上、これのもう少し細かい数字はお持ちですか。
土屋事業課長	今は手持ち資料がないのですが、戻って調べればわかると思います。
小野田副会長	わかりました。
峯島委員	高等学校では行っていないということですが、これは高等学校に受け

	ていただけないということでしょうか。
土屋事業課長	例年、年度末くらいに各高等学校の校長さんに献血に対してのアンケート、学校での献血を実施、もしくはセミナーを開催させていただけるかご返答いただき、ご協力していただける学校さんにはバスでお邪魔させてもらっております。
溝口委員	不採血者数は全体の1割以上いらっしゃるということですが、その方々に対して健康指導等がセンターさんの方からあるのでしょうか。
土屋事業課長	看護師が血液の濃さを調べていますが、そこで血液が標準と比べて薄いという方には、食事に関する冊子をお渡ししています。他の市町村さんで市役所献血があった際に、市の保健担当者についていただいて、血液検査が引っかかった方には栄養指導どうでしょうかということをして、行った所はあります。 赤十字としては健康指導の実施ができていない、ということでご理解ください。
高橋委員	若年層の献血者数が減っているそうですが、県内の各種大学、専門学校へのお願いはしているのでしょうか。
土屋事業課長	県内の大学はほぼ行っております。行っていない大学の方が少ないという形です。ただ大学生と言っても、授業が詰まっており、空いている時間が休み時間しかないとなると休み時間が10分、15分しかないところがあり、献血は40分以上かかってしまいます。一番長い休み時間のお昼休みに集中することもあります。 それから、午前しか授業がない学生さんには午後から来ていただくということで、ある程度人数の確保ができるようにしているのですが、以前私が大学献血をお願いしたときは、校内で学生さんが屯していたような感じがあったのですが、今はそういったことがなく、授業が始まると学校は閑散としてしまいます。そんな形で赤十字の人間だけが声張ってお願いしますって、誰に声かけているのかというような状態になってしまっているんで、大学さんの方でも人数を集めることが少し難しいというお話になってしまっております。 しかし、多いところで1日に70、80人来ていただく大学さんもあります。
阿部委員	輸血する方も年々増えていっていると思いますが、それに対して足りていないということは、がん患者も年々増えているのでしょうか。
土屋事業課長	年齢層が上がっているから病気になりやすい、という部分もあると考えていますが、一概にがんの患者だけが増えているわけではないと思います。若い方の献血が少ない中、年配の方の使用割合が増えているということが使用量の増加になっていると考えております。

庄司委員	昨年輸血を受けたのですが、献血の際にできないと言われました。これは医療機関で血液に悪いものが入っている、入っていないなどの判断が出れば、できるようになるということでしょうか。
土屋事業課長	医療機関ではなく国の基準として、輸血を受けられた方の献血はお願いができないようになっております。決して輸血を受けた方の血液が汚れているとか、何かに感染しているというわけではないのですが、いまだに未知のウイルスがどういったもので、どういったところに入ってきているのか。全部がわかっていないということが大きな原因です。こういったリスクがあって、こういったことがあります、というのがわかっていてそれを調査できる術があれば、献血もお願いできると思うのですが、今、何がどのようにになっているのか、全部が判明できていない。 そんな形でリスク回避になってしまいますが、輸血を受けられた方の献血はお断りさせていただいているという状況です。
庄司委員	昔、輸血用血液製剤関係は事前に予約をしていましたが、今はどうやって献血されるのでしょうか。
土屋事業課長	例えば 200ml と 400ml のバス献血からいただいた血液では、まず、白血球は全て取り除いてしまいます。白血球は患者さんの体に入ると、副作用の原因にしかありません。白血球の元々の役割というのは病原菌などへ攻撃をすることなので、患者さんの体を異物と判断して患者さんの体を攻撃してしまうため、取り除いてしまいます。取り除いた血液を遠心分離にかけて、赤血球と血しょうそれぞれの袋に分けるような形になっています。 献血ルームの方で行っている成分献血というのは、ベッドに移動して、針を刺します。横に機械があってその中で遠心分離。そこで血しょうもしくは血小板だけをいただいてしまって、その二つが袋に入っているような形です。機械の中で分離し、赤血球が少し残ってしまうのですが、モーターを逆回転して体へ一旦戻す。また採血して分離して必要な血しょう、血小板をいただければ戻す、というのを3回くらい繰り返して必要な血しょう、もしくは血小板をいただく方法となっていますので、献血していただいた段階で血しょうだけ、血小板だけというような製品ができている状況になっています。 血しょうはこれを原料として薬を作る形にもなっていて、今この薬を作るための原料血液の血しょうを確保するよう言われており、バスの方、献血ルームでの成分献血も必要になっているということで、どちらかが優れていればいいというわけではないということをご理解ください。
小野田副会長	30 年以上前に、バスで成分献血を行いました。今はバスで成分献血はできないのでしょうか。

土屋事業課長	今はバスでは行っていないです。成分献血される際に、事前検査で血球血液の中の赤血球量など調べなければいけない部分があるのですが、200ml400ml 献血だとヘモグロビンの量だけ調べれば可能です。 血球計算装置を積まなくてはならない、衛生管理の面で全てをバスに積んで動かすことができないということが原因で、バスでの成分献血はなくなってしまっているということです。 以前はその成分献血を皆さんに知っていただかなければいけない。献血ルームだけでしかできないと、なかなか成分献血もお願いできる人数が限られてくるというのがあり、市役所さんをメインとして、献血会場の献血バスでも成分献血をお願いした時期はあったのですが、献血ルームの方も浸透してきたため、バスの方の成分献血は取りやめになっているような状況でございます。
成田課長	他にございませんか。 それでは、特にないようですので、以上をもちまして、令和7年度富津市献血推進協議会を閉会とさせていただきます。 委員の皆様には、長時間にわたり、慎重審議、ありがとうございました。